

訪問型議会報告会

佐野高校は国際的に活躍できる人材の育成を目指す文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール」(SGH)に指定されています。同校に60以上あるSGH活動班のうち4つの班に参加していただきました。



外来魚大進化計画 ～let's make 魚粉～

魚粉班

背景 全国的に外来魚が増加し、駆除活動が盛んに行われているが、捕獲した外来魚はほとんどが廃棄されている。人間と外来魚のより良い共存の在り方に着目し、駆除された外来魚を有効的に活用できないだろうか。

仮説 外来魚を手軽に扱いやすい魚粉に加工すれば、作物を育てる肥料として有効活用できるのではないかな。

研究・実験 一般的な化学肥料と2種類の魚粉肥料を用いて小松菜を育て、育ち具合や収穫時の状態を観察した。

展望 実験で得た結果をもとに、今後も新たな作物(果菜・根菜)を生育する。外来魚魚粉の特徴や利便性を地域に広めたい。

議員の所感 新たな発想で魚粉に加工し、地域・企業・漁協等の関連団体との連携で新たな事業化も図れ、6次産業化も夢ではありません。今後の更なる研究を期待します。



キャンプ場を利用したまちおこし計画

キャンプ班

背景 佐野市の北部は観光資源が少なく、人を継続して呼び込めていない。豊かな自然や広大な土地を生かし、活性化することはできないか。

仮説 五感を刺激され、非日常を体験できるキャンプに着目し、豊富な自然を生かしたキャンプ場をPRすれば、人を呼び込めることができるのではないかな。

現状分析 10代20代の若者の利用が少なく、冬キャンプが人気があるのに冬季休業があることがわかった。

解決・考察 イベントの企画や、天明鑄物のキャンプ用品(スキレット、鉄板)としての活用、SNSでのキャンプ場のPRなどを行うことで、北部への観光客を呼び込める。多くの世代の人に市回遊型の観光を楽しんでもらい、市全体の活性化や持続可能なまちづくりにつなげることができる。

議員の所感 観光立市を掲げている本市として、大変参考になる研究テーマでした。キャンプ用品として天明鑄物の活用を結び付けた発想力も素晴らしく、更なる研究の取組、発展を期待します。

